

1. ハマフエフキ種苗生産技術研究

養殖種魚の増殖技術研究 養殖

多和田真周、藤本 裕

本研究の詳細は昭和54年指定調査研究報告書(昭和55年3月)、種苗生産部門において報告したのでここでは要約だけを記す。

要 約

1. 天然親魚を採捕養成したが未成熟魚が多数であったため、自然産卵は認められなかった。
2. 5月9日から6月11日にかけてホルモン剤投与による人工採卵を試みた。ゴナトロピンを6～7日間隔で6回注射を行なった結果、産卵が7回認められ、総採卵量は156,000粒であった。しかし、ほとんどが未受精卵であった。
3. ハマフエフキの卵発生と仔稚魚の形態変化について図示した。卵発生で特徴的なのは受精して16時間後、油球が球型からうり型に変化することである。
4. 孵化直後から60日目までの仔稚魚の形態変化についての概略を述べた。
5. 鹹水性白点病類症の発生は水温が20～22℃に多発傾向にあったが、昭和54年度は水温の高低は問わず18～30℃の広範囲内で発生した。
6. 鹹水性白点病類症の寄生性原虫の大きさは長径375～400ミクロン、短径が225～250ミクロン、細胞内の核は明瞭でなく卵型で微細な繊毛でおおわれる。50～70ミクロン程度の大きさが多数を占める。寄生部位は飼育水に接する部位全部に、感染魚は鰓粘液を多量に分泌して呼吸困難となって斃死する。
7. 鹹水性白点病類症予防試験を行なった結果、硫酸銅1ppm + マズテン0.25ppmの24時間薬浴を10日間隔に実施した試験区で91日間、感染症状は認められず予防効果が明らかであった。